

平成27年度 学校自己評価システムシート (県立大宮東高等学校)

目指す学校像	文武両道を旨とし、正義感溢れる心身ともに健康な生徒を育てる学校
--------	---------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の能力を最大限に引き出す授業を実践し、確かな学力の定着を図る。 2 組織的・計画的なキャリア教育を通して、生徒が主体的に進路を実現できる能力を培う。 3 生徒指導の充実と部活動等の活性化を図り、高い規範意識と豊かな人間性を持った生徒を育成する。 4 保護者や地域と密接に連携し、地域に信頼される開かれた学校づくりをする。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 (1月30日現在)			実 施 日 平 成 2 8 年 2 月 5 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	□現状 ・生徒の84.5%が授業に「満足」している一方で、家庭学習時間が30分以下の生徒が約8割いるなど、主体的に学習に取り組めていない生徒も多い。 □課題 ・わかる授業の実現に向けた授業改善・授業研究の一層の充実。 ・確かな学力確立に向けた、自主的な学習態度の育成。	生徒の主体性を育む学力向上の取組	①教員の一層の授業研究・教科毎の授業研究の推進。 授業アンケートの活用。 ②学校全体で行う8:30から10分間の朝勉強を含め、授業以外で毎日1時間以上の学習に取組ませ、学習に対する意識の向上を図る。同時に、「授業以外の学習時間」が確保できるような環境整備を行う。	①生徒、保護者の授業満足度。 ②主体的に授業に取り組む生徒の割合。生徒の平均学習時間。	当初の目標をほぼ達成できた。 ①生徒満足度81.4%は、昨年度の84.5%を3.1ポイント下回ったが、H24年度79.5%、H25年度79.2%を上回り、昨年からの高水準を維持した。保護者は87.8%で、昨年から1.7ポイントアップ。 ②主体的に取り組んだ生徒数74.0%は昨年度の78.1%を4.1%下回ったがH24、25年度比で県立生徒の平均学習時間では1日1時間以上が42.1%で昨年を大きく上回り、全く勉強しないと答えた生徒の割合が63.2%から38.0%と大きく減じた。	A	主体的な学習時間の確保に向けては、朝勉強の徹底や、必ずしも家庭学習時間に限らず、あらゆる生活場面から工夫する指導により、大幅な向上がみられた。今後も指導を継続し、定着を図る必要がある。 授業におけるわかりやすい説明を求める生徒の意見も多く、課題となる。生徒の実態に則した、わかる授業の実現に向けた授業改善、授業研究の一層の充実が求められる。	家庭学習時間がとりにくい状況下、授業充実への期待は大きい。反復、即フィードバックの小テスト、学習ノート評価の活用、教員自身の「わかる授業実施満足度」を評価指標に加える等の工夫はどうか。部活引退後の切替も大切である。アンケートで求める「学習」を定義できると良い(授業予復習、宿題、受験対策など)。
2	□現状 ・2年次から分野毎にきめ細かく指導し、生徒の74.7%が指導に満足している。 ・就職・公務員は難化。進学ではチャレンジ精神が不足している生徒もいる。 □課題 ・生徒一人一人の多様な進路希望を実現するキャリア教育の一層の充実。 ・保護者への的確な進路情報提供 ・生徒への個別指導の一層の充実	生徒の主体性を引き出す進路指導の充実	①学校全体での組織的かつ3年間の継続的な進路指導を実践する。 ②生徒の可能性や適性を見極め、進路実現に導くなど、全教員の指導力向上とキャリア教育の充実を図り生徒の進路意識を向上させる。	①生徒の主体性を育む進路行事等の実践。進路だより等の発行回数。 ②進路指導に対する生徒・保護者の満足度。	当初の目標をほぼ達成できた。 ①進路指導部と各学年が連携し、在籍3年間を見通した体系的な進路行事が、計画通り実施された。3年生では1月までに91.5%の生徒が進路決定した。未決定者のうち81%は大学等の一般受験であり、進学に向けて努力を続けている。就職では10名の公務員合格者があがっている。進路等に関する通言は3学年で計37通発行され、生徒、保護者に有益な情報提供がなされた。 ②生徒の進路指導満足度は75.2%(+0.5P)、保護者の進路指導満足度は82.5%(+0.6P)であった。	A	進路指導部と学年指導の連携により、3年間を見通した進路指導事業については安定的に実施できるようになった。現状では、本校生徒の進路希望分野は、大学、短大、専門学校、就職と多岐に渡っており、引き続き諸事業の実施と教員の指導力向上が課題となる。生徒、保護者の満足度を今以上に高いレベルで安定させるため、進路指導部から教員向けの進路情報提供や教員個人個人の研修を継続していくことが必要である。	進路指導は生徒自身が将来像を持ち、その実現に向けた主体的な取組みを支援することである。授業や部活動といった学校生活を通じて生徒自身がしっかりとその姿勢を作れるようHRや面談を充実させたい。進路指導部から教員に向けてのアプローチや教員研修の継続が掲げられていることは、全校体制への意気込みが感じられ、評価できる。
3	□現状 ・基本的な生活習慣等は概ね確立している。 ・9割の生徒が部活動に加入し、県大会や関東大会等で活躍している。 □課題 ・より一層の規範意識の育成。 ・部員一人一人を一層大切にし、更なる生徒の主体性を育み、部活動の活性化を図る。	規範意識を高める生徒指導の充実 豊かな人間性を育て、目標に向かって努力する部活動の活性化	①生徒指導部・学年・家庭の連携による生活指導と交通安全指導を徹底する。 ②文部科学省「部活動指導工夫改善事業」や部活動顧問の指導力の向上などにより、関東大会等上位大会への出場実績を維持・向上させるとともに、文化部活性化を図り、応援体制を強化する。	①指導件数、交通事故。交通安全指導の充実。指導内容及び回数。 ②部活動の実績。長期的視点に立った、応援強化に係る文化部員数の確保のための工夫。生徒、保護者の部活動満足度。	指導対象となった生徒数が昨年を上回った。 ①生徒指導部による指導員以上4件11名(-2P,+4P)登下校時の交通安全指導は12件(-2P)であった。生徒主体の交通安全の自転車マナーアップ講習会とPTA交通安全の指導(年間3回)を計画通り実施した。評価指標上の成果が結びついている。 ②「部活動指導工夫改善事業」を計画通り実施。関東・総体県予選8位以上29件(-3P)、関東出場13(+3P)、全国総体出場3件(±0)であった。部活動満足度は生徒77.4%(+3.5P)、保護者85.8%(-0.1P)であった。文化部活性化については、全校集会、学校案内校長メッセージへの記述、生徒説明会、中学校説明会、塾訪問等で入部呼びかけを行った。	B A	生徒指導については、校内組織連携のもと十分な対応ができていた。評価指標だけでは測れないが指導件数は昨年を上回った。自転車の危険運転などへの苦情も稀にあり、引き続き生徒指導部の指揮により、全教職員共通理解を図り継続して取り組んでいく。 部活動については、各顧問とも前向きに指導力向上に取り組んでおり、活発な状態を維持している。「部活動指導工夫改善事業」も軌道に乗り、競技実績に結び付いている。文化部活性化の部員数確保については、取組1年めであり、成果が数字に表れてはいない。この評価項目については継続課題と捉え、引き続き取り組んでいく。	規範教育、安全教育は地道に継続していくこと以外に王道は無い。引き続き、指導を継続させてほしい。「あいさつ」は特筆すべき校風であり、今後も継承して行ってほしい。 部活動は本校において重要な位置にあり、活躍を大いに期待する。今後も指導力向上に取り組んでほしい。競技力向上と将来性伸長の双方からの指導が必要である。懇話会の様子から、生徒は学校行事への意識が高く、評価項目に加えたかどうか。
4	□現状 ・多様な方法、機会を通じて情報発信に努めている。 ・小学校や自治会等の交流、学校評価懇話会を通して開かれた学校づくりを推進している。 □課題 ・本校の理解を深める広報活動の一層の推進 ・地域の中で生徒の活躍の場を少しでも多く確保する。	地域に信頼される開かれた学校づくりの推進	①生徒募集に向けた新たな組織を作り、短期的、長期的な施策の実施や学校説明会の充実、改善を図る。 ②ホームページやメール配信などを通じたタイムリーかつ確かな教育情報の発信等、広報活動を改善・強化。 ③交流、ボランティア等、地域における生徒の活躍の場を確保、実施する。	①学校説明会参加者数及び志願者数の増加。 ②ホームページ更新回数、アクセス数。メール配信数。 ③生徒の地域における活躍状況。	当初の目標を達成するまでには至らなかった。 ①学校説明会参加者数2,326名(-27P)、12月15日現在の志願者数369名(-21P) 普通科の募集人員(復旧)であったが、体育科も12Pであった。 ②ホームページ更新回数100回(-31P)、アクセス数552,605回(+159,347P)、メール配信数57回(+9P) ③小学校交流(11月近隣3校105名参加)、病室ラテ(12月大宮共立病院77名参加)、その他も野球部の清掃活動、ダンス部の老人施設公演、軽音楽部の公民館公演など部活動単位での実施あり。	B	5月に生徒募集に係る新委員会を作り、学校案内のリニューアル、学校説明会生徒発表や中学校訪問の拡充に取り組んだが、現時点で志願者数増等の顕著な成果には結びつかず、課題を残した。今後、学校説明会の時期や提供情報、中学校広報の改善を図る。ホームページ、メールについては評価指標で昨年度を大きく上回った。交流等についても当初計画事業に加えて部活単位での実績があった。これらについても継続課題と捉え引き続き取り組んでいく。	生徒募集は広報の工夫と、実績しかない。小学1年生からの働きかけも必要である。 学校行事に地域から多くの方が来校され、開かれた学校運営に力強い結果となった。地域の信頼は、服装、態度、挨拶、行い、部活など生徒の姿に由るもの。地域の信頼、期待は年々高まっているので、引き続き努力してほしい。